

もみの木

雪は森とたわむれ

川のしらべとなり

野の花にひかりをはこぶ

こむらさきは地のふるえに

純白のおもいをあずかる

真珠色の指はまいおどり

うたは泉を浅みどりにそめ

帆は風にあすをひらき

島影とほほえみをかわす

舟人は入江におりたち

星のかけらをたしかめ

山のふところへわけいり

もみの木の芽ばえを見つめ

雪のおとずれを待つ

米内山幸孝